

## 食事に関連した服薬アドヒアランス不良の改善をめざして

(大阪府) 総合メディカル (株) そうごう薬局八尾店

○野村 恵里 乾 真由美 石川 弘子

### 【目的】

薬局現場では、「食事を摂らないから飲まなかった」「食後に飲み忘れたので飲まなかった」など、様々な食事に関連した服薬アドヒアランス不良例に遭遇することがある。特に慢性疾患ではこれらの積み重ねが、疾病予後を左右しかねない。

患者に薬剤と食事に関する正確な知識があれば、これらの問題は解決し、患者の服薬アドヒアランスを改善させることができるのではないかと考え、以下の取り組みを行った。

### 【方法】

- ①当薬局に備蓄している脂質異常症・高血圧・糖尿病治療薬と食事との関係を調査
- ②該当薬剤を服用中の患者に服薬状況を調査
- ③患者に薬剤と食事の影響を説明、①に基づいて服薬アドヒアランス不良患者へは対処方法を説明
- ④③の説明後、食事に関連して服薬アドヒアランス不良患者の服薬状況を再調査

### 【結果】

- ①調査対象薬剤 64 品目のうち、食事の影響が報告されている薬剤は 14 品目であった。
- ②服薬状況の調査対象患者は 95 名であり、服薬アドヒアランス不良患者は 39%であった。そのうち食事が関連しているものは 54%であった。
- ③服用中の薬剤と食事の影響を正しく認識していない患者は 85%であった。
- ④薬剤と食事の関係の説明後、服薬アドヒアランスが改善した患者は 75%であった。  
そのうち 66%は服薬遵守率が 100%であった。また全員が薬剤と食事の影響に関する説明を「役に立った」と回答した。

### 【結論】

患者に薬剤と食事に関する正確な知識を持ってもらうことで、服薬アドヒアランスが改善した。薬剤師は正確な情報を患者に伝え、対処方法を正しく理解してもらうよう努める必要がある。今回の取り組みで、服薬アドヒアランス改善における薬剤師の介入の効果を確認することができた。服薬アドヒアランスに影響する因子には様々なものがあるが、それが何か、それらを解決するためには何が必要なのかを患者とともに考え、1つ1つ解決していくことが重要である。